

交通バリアフリーから共生社会を考えよう!

～誰もが どこでも 行きたいところへ～

冊子の活用方法

この冊子は基本的な学習内容を中心にまとめており、座学で使用するためのものです。
座学だけではなく、実践(ワークショップ等)により、生徒がさらに理解を深めることができます。
ワークショップを実施される際の参考事項と、授業進行案を掲載しましたので、ご参考ください。
ご不明な点やご相談については、お問い合わせください。



この学習
プログラムの
ねらい

共生社会の実現に向け、障害の有無に関わらず、共に学び、成長しあえる環境づくりについて考えます。

就学や就職など社会参加するためには、移動が欠かせません。

このプログラムでは日常生活に密着した移動をテーマに公共交通機関などでのバリアフリー化の取り組みを通じて、誰もが利用でき、外出できる環境の重要性を学習することができます。

同時に、障害の特性、バリアフリー化を必要とする様々な人の存在を知ること、相互理解により共生社会の実現に寄与することが可能なプログラムです。



公益財団法人

交通エコロジー・モビリティ財団

Foundation for Promoting Personal Mobility and Ecological Transportation

★ワークショップを実施いただく際の参考事項

1 テーマを決める

ワークショップでは、テーマ設定が重要です。

冊子を一通り学んだ後に生徒自身(あるいはグループ)でテーマを決め、テーマについてどのように調べたり、見に行ったりするか計画を立てましょう。

テーマの一例

地域の問題点とは

学校内や学校の最寄りの駅までの道路、駅の施設や車両などの問題点を探し出し、実際にどういった工夫や解決策があるかを調べ、まとめる。

障害の違いによる不便さと困難さとは

冊子に掲載されていない障害について調べる。
公共交通機関を利用した移動に係わる「不便さ」はどういったものがあるか、障害の特性と移動に際して困る点などを調べる。

最先端のバリアフリーとは

携帯端末などを利用した移動に際する誘導や案内などの事例を収集し、その利点や問題点を調べる。

障害者の自立とは

障害者自らが選択する方法で、安全・安心に公共交通機関で移動するためにはどのような施設、支援体制、制度が必要か、もしくは今あるかを調べる。
だれもが平等に安全に移動できる環境にしていくための解決策をまとめる。

公共交通機関の安全とは

公共交通機関で起きた事故の事例を調べ、その防止策にはどういったものがあるかを調べる。



ワークショップを進めていただく際のヒントをまとめてありますので、ご活用ください。
ワークショップは4つのステップに分かれています。



この参考事項は一例です。

2 調べる・聞く・体験する

生徒がテーマについての解決策を考えるための方法として3つの方法を提案しています。すべて実施するかどうかについては検討が必要ですが、最低限調べ学習は必要です。

調べる

自分たちで調べることが基本となりますので、学校内外を含めて授業時間について検討してください。



聞く

障害のある人や地域の方、交通事業者や行政機関の方等に来校していただくときには、あらかじめどんなことを話して欲しいか打合せを行う必要があります。

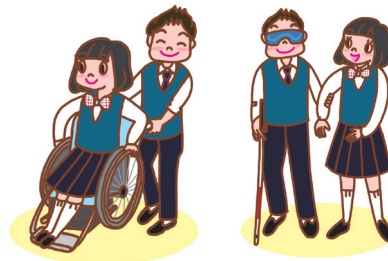
学校等へお招きする場合、会場のバリアフリーへの配慮も必要となりますし、相手の方にどんなニーズがあるかも確認しておく必要があります。



体験する

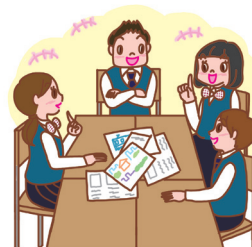
グッズの貸借、方法などを事前に確認する必要があります。

また、障害のある人にアドバイスなどを頂くことにより、より実態に近い体験が期待できますので、「聞く」とセットで実施することも検討してください。



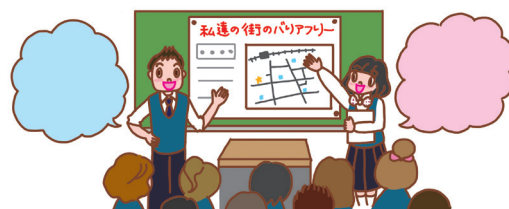
3 話し合う・まとめる

グループでどのようにまとめるかについては、模造紙など紙にまとめる、新聞形式にまとめる、パソコンのプレゼンテーション用ソフトを活用するなどの方法が考えられますので、発表方法ともつなげて検討してください。また、自分達にできることも探してください。



4 発表する

生徒達だけの発表ではなく、「聞く」や「体験する」などで来校いただいた方にも参加していただいたり、文化祭、成果発表会など学校のイベントとして外部からの来校者がいるときに発表するなど検討してください。



★授業進行案 5時間の場合

1時間目 全体授業 座学の実施とワークショップのテーマの設定と次のステップへの準備

- ◆前半で冊子を配布し、ウェブサイト等を利用しながら、交通バリアフリーを通じて共に生きる社会とはどういうものかを考えさせ、基礎知識を学ばせる。また、後半のワークショップのテーマの設定のためのヒントとする。
- ◆どんな問題点があるか生徒に出してもらい、テーマごとにグループ分けを行う。
- ◆グループに分かれて、どんな方法でテーマについて調べていくかを検討する。
- ◆この時間で、障害のある人や地域の方に来校していただきお話を聞くことが必要なのか、体験を実施する必要があるかについて検討する。また、学校外での調査が必要な場合は、調査計画を立てる。

2時間目 グループ活動 テーマについての調査

- ◆テーマについて解決策を考えるための調査を実施する。グループごとに計画した内容に沿って調べる。学校内で調べる、または学校外で調査が必要な場合は実施する。

3時間目 グループ活動 テーマについての調査

- ◆2時間目で自分たちで調べてみて疑問に思ったことなども、障害のある人や地域の方に「聞く」あるいは「体験する」ことにより、具体的な解決策を考えてみる。
- ◆障害のある人や地域の方に来校いただきお話を聞く。あるいは、時間に余裕があれば、お話を聞いた後に、疑似体験プログラムを取り入れる。

4時間目 グループ活動 話し合い、まとめる

- ◆2～3時間目での結果を踏まえて、まとめる。発表し、皆で共有することでさらに学びが深まるので、そのための準備を進める。
- ◆グループごとに、模造紙や新聞にまとめる。また次の時間で発表するための準備として発表する人を決めたり、原稿の作成、発表練習なども行う。

5時間目 全体授業+グループ活動 発表する

- ◆全グループで順番に発表し、それぞれのまとめについて意見交換し、自分たちのまとめに対して、改めて発見したことなどを反映させる。または、ワークショップを終えた感想文などを個人で書く。

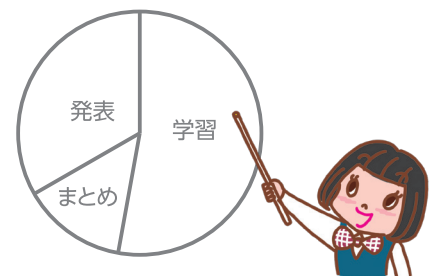
+

ステップアップ学習

さらに学習を深めるために、テーマに対する解決策を考えてみましょう。
解決策を考えるためには、冊子だけでなくウェブサイトなども活用しながら検討してみましょう。

★授業進行案 1時間の場合

事前に冊子を生徒に配布し、自宅学習の時間を確保すると効果的です。
授業ではウェブサイトを利用しながら障害について理解し、「街」、「駅」、「乗り物」のいずれか一つを対象として、先に学んだ障害の特性を思い浮かべながら、移動のためのバリアフリー設備にはどのような工夫があるかを理解します。最後に各自の感想をまとめ、残り時間に応じて数人に発表してもらうなど理解を共有します。



冊子だけでなく、ウェブサイトを併用することにより、短時間で効果的な学習が可能となります。
修学旅行等前に交通機関の利用について学ぶ一助にもなります。

発行 公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 <http://www.ecomo.or.jp/>
〒102-0076 東京都千代田区五番町10番地五番町KUビル3F TEL 03-3221-6673 (バリアフリー推進部) FAX 03-3221-6674

交通エコロジー カリキュラム案

検索

<http://www.bfed-jrhigh.jp>